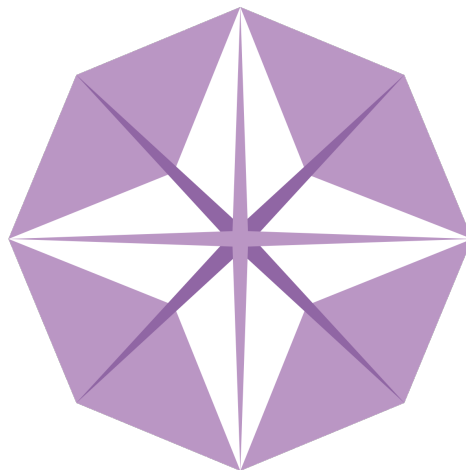


日本周麻酔期看護医学会



JSPANM

周麻酔期看護学大学院修士課程 共通シラバス

本学会は2年間の大学院修士課程教育を受けた「周麻酔期看護師」が、
麻酔科専門医と協働し診療の補助を行う医療のモデルを推進している。

ここに提示する共通シラバスは、周麻酔期看護師を育成するための最低限の内容を含む。
共通シラバスを基準に、各大学院の特色に応じ項目の追加や再編を行うことが可能である。

共通シラバスは麻酔科領域の理解と造詣を深めるための修士修了要件（2年間の実践基盤
と研究方法論・修士論文を含む大学院修士課程教育）を土台とし、日本麻酔科学会周術期
管理チーム認定の教育と、本学会を指定研修機関とした特定行為研修（術中麻酔管理領域
パッケージ研修）にも対応している。

©2020 日本周麻酔期看護医学会

日本周麻酔期看護医学会シラバス(詳細)

大学院共通・必修科目(16 単位以上)		時間
周麻酔期看護学基盤総論 8 単位		90
医療倫理 2 単位(授業形式:講義、開講時期:1 年次前期)		22.5
授業形式:講義		
学習目標:医療現場で生じる臨床上の問題、臨床研究を実施する上での問題の検討する。		
到達目標:		
1. 医療倫理の思考過程を理解する		
2. 医療倫理の歴史的背景、医療安全、医療管理、患者の権利や医療者の義務、意思決定の過程を理解する		
3. 倫理的問題の対処方法を習得する		
4. 倫理的問題を認識し、実際の問題を検討する		
5. 授業を通じて解決策を立て、臨床実践に役立たせることができる。		
評価方法:筆記試験、プレゼンテーションとその内容、討論内容、発表者および参加者としての姿勢、提出レポートを総合的に評価する。		
臨床教育 2 単位(授業形式:講義、開講時期:1 年次前期)		22.5
授業形式:講義		
学習目標:臨床教育の基本的な概念と方法論、臨床教育に必要な基本的な能力を身につける		
到達目標:		
1. 臨床教育に関する理論、歴史的背景を理解する。		
2. 問診技術、診察技法、臨床推論、仮説検証、診断治療のあり方など臨床教育に必要な知識と技能を身につけ現場での教育に生かすことができる。		
3. 臨床現場での医療安全、医療(治療やケア)の質の保証と臨床教育のあり方を理解する。		
4. 臨床現場での経験を元に、教育理論を実際の現場で活用できる。		
評価方法:筆記試験、プレゼンテーションとその内容、討論内容、発表者および参加者としての姿勢、提出レポートを総合的に評価する。		
臨床研究 2 単位(授業形式:講義、開講時期:1 年次前期)		22.5
授業形式:講義		
学習目標:臨床研究の方法論や研究過程、研究を行う際の倫理的問題を理解し、臨床実践で研究成果を活用するための能力を養う		
到達目標:		
1. 研究デザインと統計学の基礎を理解する		
2. 臨床研究を行う際の倫理的問題への配慮を理解する		
3. 研究論文の検索や論文の批判的吟味を実践できる。		
4. 臨床疑問に対して適切な研究方法を設定できる。		
評価方法:筆記試験、プレゼンテーションとその内容、討論内容、発表者および参加者としての姿勢、提出レポートを総合的に評価する。		
チーム医療 2 単位(授業形式:講義、開講時期:1 年次前期)		22.5
授業形式:講義		
学習目標:多職種が関わる医療現場の中で各職種の役割や職能、医療倫理など高度実践看護師としてチーム医療の実践に必要な知識を習得する		
到達目標:		
1. チーム医療に関わる各職種の役割と職種間の連携を理解する。		

2. チーム医療を円滑に行うためのコミュニケーション論とコンサルテーションの実際を理解できる。 3. 臨床診断や治療に至る過程の理解、意思決定の過程、医師と看護師また他職種との協働、処置やケアの質の保証を学び、看護師が特定行為を実施する中で安全で質の高いチーム医療を実現する方法を理解できる。 4. 事例を通して実際のチーム医療の実践を理解する。	
評価方法：筆記試験、プレゼンテーションとその内容、討論内容、発表者および参加者としての姿勢、提出レポートを総合的に評価する。	
周麻酔期看護学基盤各論 病態生理学 2 単位 (開講時期：1 年次前期)	22.5
授業形式：講義	
学習目標： 病態生理学は、疾病や病態の機序や仕組みを解き明かす、考え方の学問であり、医療、看護の実践の基礎である。病態生理学の履修は、「高度な専門性を要する看護実践や看護教育に携わり、看護実践を進化できる人材の育成」、「事象への関心を深め、幅広く学問を探究し、批判的思考力をもつ」に関連する。	
到達目標： 1. 病態生理学的な思考過程を学ぶ。 2. 患者の愁訴、症状、症候の背景機序を常に考えられるようになる。 3. 病態生理学的思考過程を、専門領域の看護実践に応用できる 4. 基本的病態と専門領域との関連を常に考えるようになる。 5. 病態を、専門領域間で共有するためのコミュニケーション能力を養成する 6. 同一病態の他領域の受講生と討論することにより、情報共有の仕組みを理解する	
評価方法： 筆記試験、プレゼンテーションとその内容、討論内容、発表者および参加者としての姿勢、提出レポートを総合的に評価する。	
	解剖学
	病理学
	生理学
周麻酔期看護学基盤各論 フィジカルアセスメント 2 単位 (開講時期：1 年次後期)	22.5
授業形式：講義	
学習目標： 基本的なフィジカルアセスメント方法を習得し、各現場での専門領域に応用する能力を身につける。患者評価や臨床判断に必要な知識と技術を習得し、患者の臨床病態および健康問題を把握する能力を養う。	
到達目標： 1. フィジカルアセスメントの意義を述べることができる。 2. 基本的な全身のフィジカルアセスメント(全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系)を行うことができる。 3. 病態と身体所見を統合して患者全身評価を理解する。	
評価方法： レポート課題、筆記試験、模擬患者での実技状況、プレゼンテーション内容、発表者および出席者としての討論参加態度を総合的に評価。	
	身体診察
	診断

周麻酔期看護学基盤各論 臨床薬理学 2 単位 (開講時期:1 年次後期)		22.5
授業形式:講義		
学習目標: 臨床で医薬品を正しく使用するために必要な薬理学の基礎を学び、各専門分野領域で考え方を応用できる能力を身につける。		
到達目標: 1. 薬物に共通する作用機序、薬力学、薬物動態学の基礎を理解する。 2. 薬を適切に使うための情報を得る方法を習得する。 3. 薬に伴う利益と害(副作用や相互作用含)に関する知識に基づいて、薬剤の使用(薬物の安全管理と処方含)を適切に考慮できる。		
評価方法: レポート課題、筆記試験、プレゼンテーション内容、発表者および出席者としての討論参加態度を総合的に評価。		
	薬物動態	
	主要薬物の薬理	
周麻酔期看護学基盤各論 診断・治療学 2 単位 (開講時期:1 年次後期)		22.5
授業形式:講義		
学習目標: 自立した看護研究者・上級実践者として重要な、健康状態に関する診断・治療の実践に必要な、実地的な基本的知識と方略、医療面接技法を習得する。さらに、これに基づいた臨床推論能力と問題解決能力を育成する。主要な疾患(循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/その他)を中心に学ぶ。		
到達目標: 1. 自分自身で临床上の問題を抽出し、解決できる。 2. 有病率・陽性的中度・尤度比など臨床疫学的な考え方が説明でき、情報収集や医療面接の場で有効に活用できる。 3. 頻度の高い症状・疾患の診断・治療のガイドラインの活用や吟味ができる。 4. 標準的な考え方と個別的な考え方をバランスよく持つことができる。		
評価方法: レポート課題、筆記試験、プレゼンテーション内容、発表者および出席者としての討論参加態度を総合的に評価。		
	診断総論	
	治療総論	
基盤分野合計 16 単位以上(*1)		180

大学院周麻酔期看護学専攻(28 単位)	時間
周麻酔期看護学特論 I-V (座学・合計 10 単位)	
周麻酔期看護学 特論 I (急性期看護学) 2 単位 (開講時期:1 年次前期)	22.5
授業形式:講義	
学習目標: 麻酔ならびに周麻酔期看護学をとりまく状況を幅広く理解し、麻酔を受ける患者の医療安全と周麻酔期看護師の期待される能力と在り方を探求する。	

到達目標:		
1.麻酔科学とは何かを説明することができる。		
2.麻酔業務・看護業務に関連する法律、設備環境、多職種連携について説明することができる。		
3.周麻酔期看護師の役割、機能、必要な能力について説明することができる。		
評価方法:		
レポート課題、プレゼンテーション内容、発表者および出席者としての討論参加態度を総合的に評価。		
1.	周麻酔期看護学総論	麻酔の歴史、麻酔科医と周麻酔期看護師
2.	周麻酔期看護学総論	麻酔ならびに看護に関連する 医事法制(特定行為に係る制度含)
3.	周麻酔期看護学総論	手術室環境(電気設備・医療ガス・空調等)
4.	周麻酔期看護学総論	安全管理と医療の質
5.	周麻酔期看護学総論	チーム医療と連携(特定行為実践、手順書作成含む)
6.	周麻酔期看護学総論	医療倫理(患者の意思決定支援の理論等)
7.	急性期医療概論	
8.	急性期医療各論 1	
9.	急性期医療各論 2	
10.	急性期医療各論 3	

周麻酔期看護学 特論Ⅱ 2 単位 (開講時期:1 年次前期)		22.5
授業形式:講義		
学習目標:		
周麻酔期管理に必要な患者の生理的変化を理解し、高度な看護実践能力を行うためお知識を習得する。		
到達目標:		
周麻酔期患者の管理に必要な生理学について説明することができる。		
評価方法:		
レポート課題、筆記試験、プレゼンテーション内容、発表者および出席者としての討論参加態度を総合的に評価。		
1.	周麻酔期看護学ベーシック:生理学総論	
2.	生理学各論 呼吸器	
3.	生理学各論 循環器	
4.	生理学各論 神経系(中枢、自律、末梢)	
5.	生理学各論 肝臓 腎臓	
6.	生理学各論 体液、電解質、酸塩基平衡	
7.	生理学各論 内分泌、代謝、栄養	
8.	生理学各論 免疫系	

周麻酔期看護学 特論Ⅲ 2 単位 (開講時期:1 年次後期)		22.5
授業形式:講義		
学習目標:		

麻酔を受ける患者に使用される薬剤に対する理解と生体への影響を理解し、患者が安全かつ安楽に回復に向かうために必要な根拠と対応方法を習得する。		
到達目標： 1.麻酔に関連する薬剤の薬力学・薬物力学について説明できる。 2.周麻酔期領域で使用される薬物の作用機序、代謝、臨床上の効果と生体への影響について説明できる。		
評価方法： レポート課題、筆記試験、プレゼンテーション内容、発表者および出席者としての討論参加態度を総合的に評価。		
1.	周麻酔期看護学ベーシック：薬理学総論（麻酔に必要な薬理学 薬力学、薬物動態）	
2.	薬理学各論 麻酔薬（吸入、静脈）	
3.	薬理学各論 筋弛緩薬	
4.	薬理学各論 鎮痛薬	
5.	薬理学各論 循環作動薬	
6.	薬理学各論 周術期抗菌薬	

周麻酔期看護学 特論Ⅳ 2単位 （開講時期：1年次後期）		22.5
授業形式：講義		
学習目標： 麻酔を受ける患者が安全で安楽な周術期の経過を辿れるよう、麻酔前後の患者全身評価、麻酔前後の管理に必要な根拠と対応方法を習得する。		
到達目標： 1. 麻酔を受ける患者の術前評価方法と麻酔計画について説明できる。 2. 麻酔に伴う合併症の発生機序および予防、対策に必要な根拠と方法を説明できる。		
評価方法： レポート課題、筆記試験、プレゼンテーション内容、発表者および出席者としての討論参加態度を総合的に評価。		
1.	周麻酔期看護学ベーシック：術前評価と術後管理総論	
2.	周麻酔期看護学各論 術前評価（各種臨床検査（心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査）と麻酔のリスク評価）と説明、術前患者の精神的援助	
3.	周麻酔期看護学各論 口腔評価、画像評価（レントゲン、各種エコー、CT・MRI等）	
4.	周麻酔期看護学各論 麻酔計画、体位管理	
5.	周麻酔期看護学各論 体液、電解質管理、輸液管理	
6.	周麻酔期看護学各論 輸血の種類、適応、合併症 術後感染症予防	
7.	周麻酔期看護学各論 PONV 予防、悪性高熱症	
8.	周麻酔期看護学各論 術後疼痛評価と治療（鎮痛薬の経口・静脈・硬膜外投与等）	
9.	周麻酔期看護学各論 回復室・集中治療室における合併症対策	
10.	周麻酔期看護学各論 術後評価（術後訪問による身体、精神的評価）と看護	

周麻酔期看護学 特論Ⅴ 2単位	22.5
-----------------	------

(開講時期:1 年次後期)		
授業形式:講義		
学習目標: 全身麻酔ならびに各種麻酔に必要な知識を習得し、麻酔・外科的侵襲で生じる生体反応に対する安定化の方策、臨床判断能力、問題解決能力を養う。		
到達目標: 1. 周麻酔期管理に必要な、手術術式や患者背景に合わせた麻酔方法について説明できる。 2. 各種麻酔における生体反応の特徴と安定化させるための方法について説明できる。 3. 手術室以外(外来、救急、在宅含)で行われる鎮痛・鎮静時の安全対策について説明できる。		
評価方法: レポート課題、筆記試験、プレゼンテーション内容、発表者および出席者としての討論参加態度を総合的に評価。		
1.	周麻酔期看護学ベーシック:麻酔総論	
2.	周麻酔期看護学各論 全身麻酔(吸入・静脈麻酔、気道確保法含)	
3.	周麻酔期看護学各論 区域麻酔(脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔)	
4.	周麻酔期看護学各論 心臓・胸部外科麻酔	
5.	周麻酔期看護学各論 脳神経外科麻酔、整形外科麻酔	
6.	周麻酔期看護学各論 消化器外科と乳腺外科の麻酔	
7.	周麻酔期看護学各論 小児麻酔、産科麻酔(無痛分娩を含む)	
8.	周麻酔期看護学各論 眼科、耳鼻科、甲状腺の麻酔	
9.	周麻酔期看護学各論 鎮静、手術室外(外来、救急、在宅含)の麻酔	
10.	危機的状況にある患者を理解し援助するための理論の応用・事例分析①	
11.	危機的状況にある患者を理解し援助するための理論の応用・事例分析②	
12.	危機的状況にある患者を理解し援助するための理論の応用・事例分析③	
特論Ⅰ～Ⅴ 合計 10 単位		112.5

演習Ⅰ～Ⅴ(高機能シミュレーター推奨) 合計 10 単位		
周麻酔期看護学 演習Ⅰ(周麻酔期基本技術) 2 単位		45
(開講時期:1 年次後期)		
授業形式:講義		
学習目標: 麻酔を受ける患者に行われる専門的な技術を習得することにより、周麻酔期看護師の患者に適切な治療環境の提供や安全を確保する技能や医療スタッフに教育する能力を養う。		
到達目標: 1.周麻酔期看護師が術前・術後訪問で実施する身体診察ができる。 2.周麻酔期看護師に必要な基本手技が習得できる(シミュレータによる評価)。 3.周麻酔期におけるリスクマネジメントと災害時対応について説明できる。		
評価方法: レポート課題、筆記試験、シミュレータでの実技状況(観察評価、実技試験含)、プレゼンテーション内容、発表者および出席者としての討論参加態度を総合的に評価。		
1.	周麻酔期基本技術 周麻酔期看護師に必要な身体診察	
2.	周麻酔期基本技術 麻酔器の仕組みと点検	
3.	周麻酔期基本技術 血管確保(静脈、動脈、PICC、骨髄路)	

4.	周麻酔期基本技術	バックバルブマスク換気、ジャクソンリース換気	
5.	周麻酔期基本技術	気道確保と人工呼吸器	
6.	周麻酔期基本技術	心肺蘇生、ACLS/PALS 受講(推奨)	
7.	周麻酔期基本技術	輸液ポンプ、シリンジポンプ	
8.	周麻酔期基本技術	人工心肺装置、ECMO、PCPS など	
9.	周麻酔期基本技術	ペースメーカー、除細動器	
10.	周麻酔期基本技術	麻酔中の安全確保とリスクマネジメント	
11.	周麻酔期基本技術	感染防御	
12.	周麻酔期基本技術	災害時対応	

周麻酔期看護学 演習Ⅱ（麻酔中のモニタリング） 2 単位 （開講時期：1 年次後期）		45
授業形式：演習		
学習目標： 麻酔を受ける患者（新生児から高齢者まで、在宅、救急、病院の場面含む）に必要なモニタリングおよび ME 機器に対する理解を深め、安全かつ効果的に活用する能力を養う。		
到達目標： 1.麻酔を受ける患者に必要な生体情報のモニタリング法の原理、活用方法、利点・欠点、使用上の注意について説明できる。 2.各種モニタリングにより得られる情報を生理学的視点から解釈することができる。 3.麻酔を受ける患者に使用される ME 機器の原理、活用方法、利点・欠点、使用上の注意		
評価方法： 参加態度、筆記試験、レポート課題、プレゼンテーション内容、シミュレーションでの実技状況（観察評価）、および口頭試問の内容から総合的に評価する。		
1.	麻酔中のモニタリング総論	
2.	麻酔中のモニタリング各論 呼吸	
3.	麻酔中のモニタリング各論 循環	
4.	麻酔中のモニタリング各論 神経（麻酔の深度、SSEP,MEP ほか）	
5.	麻酔中のモニタリング各論 筋弛緩モニター	
6.	麻酔中のモニタリング各論 体温モニターと保温	
7.	麻酔中のモニタリング各論 手術中の血液検査	
8.	麻酔中のモニタリング各論 産科麻酔と無痛分娩	

周麻酔期看護学 演習Ⅲ(麻酔の概要:術前から術後まで) 2 単位 (開講時期:2 年次前期)			45
授業形式: 演習			
学習目標: 全身麻酔を受ける患者の術前・術中・術後の流れの中で必要な技術、全身管理に必要なモニタリングを習得し、患者の状態に対応しながら、医療チームの一員として適切に麻酔を提供する能力を養う。			
到達目標: 1. シミュレータ(高機能シミュレータの使用を推奨、ペーパーペイシエント、模擬患者含)で全身麻酔に必要な一連の手技および介助が実施できる。 2. シミュレータ(高機能シミュレータの使用を推奨、ペーパーペイシエント、模擬患者含)で、手術操作、薬剤投与等によって生じる変化を適切にモニタリングし、適切な判断・対処が実施できる。			

3. シミュレータ(高機能シミュレータの使用を推奨、ペーパーペイシエント、模擬患者含)での一連の全身麻酔における流れの中で、患者の安全の確保し、麻酔科や多職種チームに対し必要な情報の提供や協力を求めることができる。 4. 周麻酔期看護師に必要なノンテクニカルスキルを身につけ、チームメンバーに対し適切に協働や相談(コンサルテーション)、依頼を行うことができる。 5. 適切な麻酔記録を行うことができる。 6. シミュレータ(高機能シミュレータの使用を推奨、ペーパーペイシエント、模擬患者含)で手順書に基づいた特定行為実践を実施できる。		
評価方法: 参加態度、筆記試験、シミュレーションでの実技状況(観察評価)、および口頭試問の内容から総合的に評価する。		
1.	麻酔の概要総論 全身麻酔の実際	
2.	麻酔の概要各論 術前訪問	
3.	麻酔の概要各論 麻酔計画と準備、安全確認	
4.	麻酔の概要各論 麻酔導入	
5.	麻酔の概要各論 麻酔維持	
6.	麻酔の概要各論 麻酔からの覚醒	
7.	麻酔の概要各論 麻酔記録の作成	
8.	麻酔の概要各論 術後訪問	

周麻酔期看護学 演習Ⅳ(周麻酔期の合併症) 2単位 (開講時期:2年次前期)		45
授業形式: 演習		
学習目標: 麻酔に伴う各種合併症や合併症予防に向けた患者管理、合併症の治療の実際、予期せぬ事態が生じた際の対応を理解し、周麻酔期(想定場面は手術、救急、周産期、在宅等含む)の合併症の予防や早期発見・治療に向けた方策を見出す能力を養う。		
到達目標: 1. 麻酔に伴う合併症について説明できる。 2. 麻酔に伴う合併症の予防や治療に必要な事項とその根拠が説明できる。		
評価方法: 参加態度、筆記試験、レポート課題、プレゼンテーション内容、シミュレーションでの実技状況(観察評価)、および口頭試問の内容から総合的に評価する。		
1.	周麻酔期の合併症総論	
2.	周麻酔期の合併症各論 気道・肺のトラブル	
3.	周麻酔期の合併症各論 循環器疾患	
4.	周麻酔期の合併症各論 内分泌・代謝性疾患	
5.	周麻酔期の合併症各論 体位によるもの、神経障害	
6.	周麻酔期の合併症各論 体温・悪性高熱	
7.	周麻酔期の合併症各論 輸液と輸血	
8.	周麻酔期の合併症各論 頭蓋内圧のコントロールと頭蓋内病変	
9.	周麻酔期の合併症各論 電解質、腎泌尿器疾患	
10.	周麻酔期の合併症各論 感染症の予防と治療	
11.	予期せぬ事態が生じた際の対応について①	
12.	予期せぬ事態が生じた際の対応について②	

13.	予期せぬ事態が生じた際の対応について③	
-----	---------------------	--

周麻酔期看護学 演習Ⅴ (術後:回復室・集中治療室・一般病棟の評価と合併症の早期発見) (開講時期:2年次)		45
授業形式:演習		
学習目標: 麻酔後の患者に必要な術後評価、全身管理や集中治療に対する理解を深め、周麻酔期における患者の合併症予防と早期回復に向けた方策を見出す能力を養う。		
到達目標: 1.麻酔を受けた患者の術後評価に必要な事項とその根拠が説明できる。 2.麻酔を受けた患者の術後に必要な援助について説明できる。 3.術後の疼痛管理の方法について説明できる。 4.回復室・集中治療室で行われる合併症予防とその対策、早期回復に向けた治療・看護について説明できる。		
評価方法: 参加態度、筆記試験、レポート課題、プレゼンテーション内容、シミュレータでの実技状況(観察評価、実技試験)、および口頭試問の内容から総合的に評価する。		
1.	周麻酔期看護 術後評価総論(術後訪問における身体、精神的評価)	
2.	周麻酔期看護 術後評価各論 医の倫理	
3.	周麻酔期看護 術後評価各論 疼痛の評価と治療	
4.	周麻酔期看護 術後評価各論 呼吸の評価と酸素療法	
5.	周麻酔期看護 術後評価各論 人工呼吸療法	
6.	周麻酔期看護 術後評価各論 循環管理と心肺蘇生	
7.	周麻酔期看護 術後評価各論 血液浄化療法	
8.	周麻酔期看護 術後評価各論 多臓器不全の予防、せん妄予防	
9.	周麻酔期看護 術後評価各論 口腔ケアとカテーテル挿入部の消毒、ドレッシングチェンジ、カテーテル抜去	
10.	周麻酔期看護 術後評価各論 栄養療法、早期離床について	
11.	周麻酔期看護 術後評価各論 ERAS	
12.	周麻酔期看護 術後評価各論 緩和医療、脳死について	
演習Ⅰ～Ⅴ 合計 10 単位		225

実習(6単位)	
授業形式:実習 (開講時期:2年次前期・後期)	
学習目標: 周麻酔期看護学特論および演習での学習を統合し、麻酔の理解を深化させるとともに、周麻酔期にある患者の安全・安楽、チーム医療の実際を通して周麻酔期看護師に必要な能力を養う。	
到達目標: 1.合併症のない全身麻酔症例の、麻酔前から麻酔後の麻酔業務の流れが説明できる。2.麻酔科指導の下で、麻酔を受ける患者の術前評価ができる。 3.麻酔科指導の下で、麻酔前説明、麻酔補助業務、麻酔後患者評価ができる。	

4.実習中の症例を基に、麻酔中の患者の状態変化の評価ならびに対応方法について説明できる。	
5.実習中の症例を基に、患者の重症度や麻酔に応じた患者モニターの選択と活用方法について説明できる。	
6.麻酔科カンファレンスや抄読会に参加し、研鑽を継続する必要性を説明できる。	
7.実習場面を基に、周麻酔期看護師が実施する麻酔業務・多職種連携・協働のあり方を考察することができる。	
8.実習場面を基に、周麻酔期看護師に必要な知識・技術・態度を説明できる。	
評価方法： 実習への取り組み、参加態度、直接指導時の実践評価など総合的に評価する。	
実習 6 単位合計時間	270

課題研究(2 単位) (開講時期:2 年次前期・後期)	
学習目標： 周麻酔期看護学の特論・演習・実習を基盤とした臨床上の疑問・研究課題に対し、研究的アプローチを用いて、臨床実践に寄与する論文を作成する。	
到達目標： 1.明確な研究課題が設定できる。 2.研究計画書が作成できる。 3.データ収集および分析ができる。 4.論文としてまとめることができる(実践への示唆、今後の課題が明示されている)	
評価方法： 課題への取り組み、論文査読および指導教員との面接討議など総合的に評価する。	
課題研究 2 単位合計時間	60

案:合計 44 単位合計時間	合計 847.5 時間
----------------	-------------

参考図書：

Miller's Anesthesia 9th edition, Elsevier (2019)

麻酔の MGH 麻酔の手引 第 7 版 (日本語:稲田英一翻訳)、MEDSi (2017)

周術期管理チームテキスト第 3 版 公益社団法人日本麻酔科学会編、ムック (2016)

チーム医療による周術期管理まるわかり 川口昌彦・古家仁、羊土社 (2015)

特記事項：

1. 特定行為研修切り出し
2 年間の大学院周麻酔期看護学修士課程に含まれる特定行為研修は、座学・演習・実習の一部または全部を切り出して教育講座としては認めない。
2. 読み替え
シラバスには、日本麻酔科学会周術期管理チームテキスト内容と特定行為研修必須項目を含めた(特定行為研修プログラムと学会シラバス読み替え表は別資料参照)。特定行為研修の共通科目・区分別科目に該当する項目の指導担当者については指導者一覧を参照。
3. 大学院ごとのアレンジについて

2年間の大学院周麻酔期看護学修士課程に共通基本項目のみ含めたため、各大学院ごとの特色に従い追加と項目の再編を行うことが可能である。単位・コマ数について、各大学院ごとに実質上の時間との相違があるため、60進法を統一時間軸とし、単位換算表(表1)に基づき互換した。

4. 周麻酔期看護学の教育と指導は日本麻酔科学会指導医・専門医が責任者として行うものとする。
5. 実習を除く授業は、面接授業を基本とするが担当教官の判断でメディア(同時双方向かつ教室等以外の場所で履修)を用いた授業で行うことも可とする。
6. 区分別科目の筆記試験は当該科目の講義、演習時間に含まれる、また区分別科目のOSCE1時間、観察評価1時間(1症例につき10分程度)実施する。

単位換算表(本シラバスの場合)							
	1授業にか かる時間 A(分)	1回の授 業枠 B(回・ コマ)	1回の授 業枠 分の授 業時 C=A×B (分)	1単位 分の授 業枠数 D(回)	1単位 分の授 業時間 E=C×D (時間)	必須単 位数 F (単位)	必須時間 G = E×F (時間)
大学院共通・必修科目							
周麻酔期看護学基盤総論	45	3	135	5	11.25	8	90
周麻酔期看護学基盤各論	45	3	135	5	11.25	8	90
大学院周麻酔期看護学専攻							
座学	45	3	135	5	11.25	10	112.5
演習	90	3	270	5	22.5	10	225
実習	60	—	—	45	45	6	270
課題研究	60	—	—	30	30	2	60
合計必要単位数と時間						44	847.5